

# 公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

## 平成 26 年度 事業計画書

(平成 26 年 4 月 1 日より平成 27 年 3 月 31 日まで)

昨今の変化の激しい経済状況の中で、当財団の次年度の運用資金の予測が難しくなっているが、当財団は公益財団法人として、次年度も可能な範囲で助成事業を促進していくと共に、国際学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版ならびに、粉体工学に関する講演討論会を開催し、粉体工学に関する学術の振興、啓蒙に貢献していきたい。KONA 誌については、平成 25 年度に公的なオンラインデータベース J-STAGE に掲載が開始されたが、次年度にはその全てのバックナンバーの掲載を計画している。

さらに、平成 25 年度は、当財団設立 20 周年記念事業として、若手研究者向けのホソカワ粉体工学研究奨励賞の贈呈、ならびに特別講演会の開催を実施したが、次年度はこの特定事業の一環として、当財団としては初めての試みである海外でのシンポジウムの開催を計画しており、KONA 誌の出版だけでなく、このシンポジウムを通して、当財団の活動を国際的により広く展開していくための一つのステップにしていきたい。

### I. 助成関連事業

本年度は昨年度と同様に、以下の 4 つの助成事業を継続して実施する。

予算額 2,610 万円 (事業管理費を含む)

1. 粉体工学に関する研究のための研究費助成 (研究助成)
2. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞 (KONA 賞)
3. 粉体工学に関する研究成果公開の援助 (シンポジウム等の開催援助)
4. 粉体工学に関する研究のための研究者の育成の助成 (研究者育成の助成)

### II. 特定事業

平成 25 年度事業計画の変更により、財団設立 20 周年記念の特定事業の一環として当初平成 25 年度に予定していたものの、諸事情により次年度に延期することが決まっていた下記の海外シンポジウムを開催する。

予算額 470 万円 (事業管理費を含む)

#### 1. 海外シンポジウムの開催

世界的なレベルで粉体工学の発展に寄与することを目指して、日本と同様に粉体工学の活動が活発であるドイツにおいてシンポジウムを開催し、日独間の研究・技術の交流を図る。シンポジウムでは、ドイツから 3 名と日本から 1 名の講師を産学界より招聘して、基礎的ならびに実用的な面からの講演、討議を予定している。

### Ⅲ. 財団自主事業

#### 1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 486 万円

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者（5～6名）から最近の研究成果について講演して頂き、その課題に関心の深い研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年1回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。（平成26年度は東京において開催の予定）

③ 経費および用務の分担

本講演討論会の企画については、粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

#### 2. KONA誌の発行

① 予算額 840 万円

② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年1回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成22年6月から Journal Citation Report に KONA のインパクト・ファクターが収録されている。なお、No. 31(2014)の掲載論文数は19編、274頁で、平成25年度は1,800部を印刷・発行した。

次号の出版については、粉体技術談話会に委嘱し、編集等を行うと共に、編集委員会の体制強化を図る予定である。

### Ⅳ. 年報の発行

① 予算額 70 万円

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 役員等名簿
- (3) 研究成果等の報告

以 上